BSSC テニス部におけるクラブ活動が部員の情動知能に与える影響

山元　俊英（競技スポーツ学科　コーチングコース）
指導教員　北村　哲

キーワード：情動知能，クラブ活動，EQS テスト

1.　緒言

情動知能とは，集団の中で調和を保つための社会的能力であり（ゴールマン，1996），自分の感情をコントロールする能力であり，さまざまな社会状況において生じる問題に対して対応できる能力でもある．また，他者との関係を築き上げる能力でもあり，自分の感情のコントロールや，他者との関係が良好な場合は，情動知能は向上する．クラブ活動において競技力向上ためのより良い環境づくりには，他者との良好な関係が重要である．そのため，クラブ活動により部員の情動知能が変化することが考えられる．

そこで本研究は，BSSC 男子テニス部のクラブ活動において，どのような出来事や活動が部員の情動知能の変化に影響を与えるのかを明らかにすることを目的とする．

2.　研究方法

1）対象者

2014 年度 BSSC 男子テニス部の 4 年生 5 人，3 年生 5 人，2 年生 5 人，1 年生 9 人，計 24 人を対象とした．

2）情動知能の変化の調査

情動知能の変化を検討するために，2013 年 11 月（1 年生は 2014 年 5 月）と 2014 年 10 月に EQS テストを実施し，その結果をもとにグループ別(学年別，レギュラー，ノンレギュラー）での得点の変化について検討した．

3）情動知能の変化の要因の調査

情動知能の変化の要因を検討するために，インタビュー調査を行い，その結果から KJ 法を行い，カテゴリー化する．その後，2 つの調査から変化の要因が，どのような出来事，活動が影響しているかを検討する．

3.　結果と考察

4 年生と 2 年生ノンレギュラーにおいて，臨機応変に処置できる能力である「状況コントロール」の項目において有意差が見られた（図 1）．「状況コントロール」の中でも 4 年生ノンレギュラーについては，自分自身を変えて状況に適合させる力である「機転性」が，2 年生ノンレギュラーについては，柔軟な対応能力である「適応性」が有意に変化していた（図 2）．

4 年生（特にノンレギュラー）は円滑にクラブ活動を進めるためにクラブの中心として活動内容を考え，指示を出すという機転を利かせなければならない行動が多いこと，2 年生ノンレギュラーは上級生からの指示を理解し，1 年生に理解させながら指示を出すという適応力が必要な行動が多く求められることが変化の要因であったと示唆される．

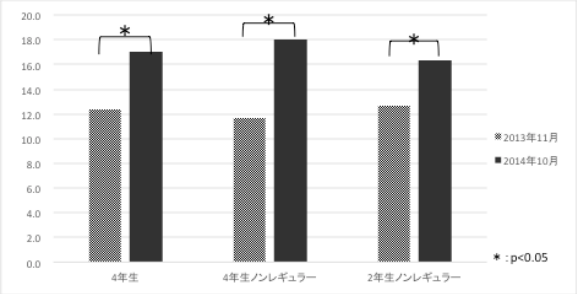

図 1　状況コントロールの変化

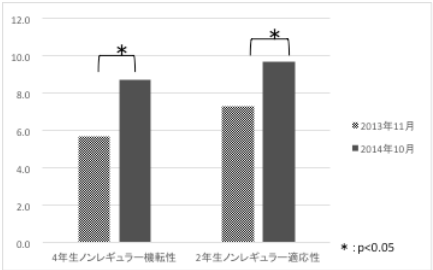

図 2　状況コントロールの変化の要因

4.　まとめ

BSSC 男子テニス部における情動知能の向上は，普段のクラブ活動を円滑に進めるため，チーム環境の整備が要因となっており，4 年生と 2 年生のノンレギュラーに対して大きな影響を与えていることが明らかになった．

5.　主な引用参考文献

ダニエル・ゴールマン（1996）EQ 心の知能指数．講談社．pp．1－3．